

工事畫報新年號と

日本の六大工事

將に來らんとする大正十五年は技術的實行の最高潮に向ふ時でありますから土木建築に關する工事界は將に一大革進をしなければなりません。

工事畫報新年號は現在日本の六大工事を世界に紹介致すつもりであります。

工 事 タ イ ム ス

横濱築港第四期 内務省土木局は、横濱港第四期擴張計畫を立て、近く復活する港灣調査會第一回總回に諮問するはずである、設計概要は『北防波堤より鶴見川に至る海面を埋立、楕形岸壁十ヶ所を築造し、その前面に亘つて長さ千九百メートルと二千百メートルの二條の防波堤を設く』なほ横濱港第三期擴張工事は、大正十年より大正十七年の繼續事業として、總工費千三百四十萬圓の豫算で大正十年に起工し、震災復舊工事のため一時中絶の有様であつたが、復舊工事もこの程竣工したので、更に第三期擴張工事中である、完成年度は行政整理のため大正十九年度まで延長せられた。

東京帝大圖書館 震災によつて焼失した同館は世界的同情の下に、寄贈、又は購入された書物は目下續々日本に舶載され、着々復興の實をあけつゝあるが、他方、新圖書館の建築においても、さきに米國の富豪ロックフェラー氏より四百萬圓の寄金があり、それに加ふるに、建築豫算として、百五十萬圓の復興資金もあつて、五百萬圓を超える巨資を擁して理想的の設計に急ぎつゝあつた。このために帝大内に特別建築委員會を設置して、各方面の意見を綜合して萬遺漏なきを期してゐたが、この程、内田營繕課長の手全部を取握めて漸く全部の設計を完成し近く公表せらるゝ由。

米國大使館の設計 米國に於てカンサス市の自由塔、マツキンレーの記念像等を設計して

有名な建築技師エッチ、マゴニグル夫妻が十一月二日桑港から横濱へ入港したプレジデント、クリーブランド號で來朝した、氏は『私は震災で焼失した米國大使館の再建についてその原圖作成のために來たのです、敷地は元の場所で三百五十萬圓位の豫算です、而て議會の協算を経なければならぬので果して其のまゝで實現するかさうかは判りませんが實現するごすれば來年の秋頃ご思ひます東京でレイモンド技師と協議するのですが大體最近の米國の傾向を基礎としてそれに東洋風の味を加へ度い考です、云々。

横濱港棧橋工事落成式 内務省横濱土木出張所の直轄工事である横濱港の棧橋復舊工事は、耐震火的に復舊工事なりて十月二十八日盛大なる開橋式を舉げられた。

神田上野間開通式 鐵道省第一改良事務所の工事で有名なる市街線の神田上野間の高架線工事落成して其開通式は十一月一日上野に於て盛大に行はれた。日本交通史上の一新過程である。

ヒュームコンクリートパイプ 今回創立せられたる日本ヒュームコンクリート株式會社は水道鐵管又は水壓鐵管に代用して、より以上の効果あるヒューム式コンクリート管の製造を目的とするものにて英國の專賣特許權を日本に於て一手代表するものなり。我國に於ても各種のコンクリート管を創製せらるゝ際ヒューム式が如何に優秀なる効果を發揮すべきか注目すべきものなり。